

仙林寺だより

NO. 38
編集・発行
松田正貴

行事報告

「猫川観音祭礼」

猫川の観音様は、馬頭観音様です。馬頭観音様は人身馬頭の様相です。そもそも馬が草を食むこととく私達人間の様々な煩惱を食べつくす思いをそのお姿に現わしなぞらえたものでしょう。観音様には主に六観音といわれる聖観音、如意輪、千手、十一面、准てい等、この他にも数多くの菩薩様が居られますが、それぞれ三十三にそのお姿を変えて私達をお救いくださると言われます。

三十三の数はそれ以上ない大きなという意味があるそう、西国、板東近隣では信達など三十三観音参りの名の付く霊場が多くあるのはその様な理由からです。また、各札所ではこれに由来して三十三年に一度大祭を催します。人生五十年と言われた時代、大祭の機会を得る事は、この上ない縁であったことでしょう。「難知難遇」とは仏様の教えに出会う事またその知る事の得難き縁の有難さを言ったものです。稀な機会を示す事で、今日この日頂いた命に感謝し、一瞬を無駄に過さぬ心を頂く思いそのものが、観音様の大きなご利益と言えるのかもしれない。猫川の観音様も大祭を予定されているとの事、「千載一遇」の好時節の思いでたずさわりたいものです。

梅花流県大会

み仏様の教えにより親しんでいただく事を目的に発願された梅花流詠讃歌も発足五十三年目大会は十五日パルセ飯坂にて開催されました。

仙林寺講はピンクの襷がシンボルマーク、どこに居てもそれとわかる目立つた存在です。お唱えのレベルの高さも目立っていますね？

ところで、お寺での月に二回の定例勉強会も和気霽々(あいあい)、楽しい中にも同行の法縁に浸れる貴重な時間を過ごしております。より多くの方々に同じ思いを共有して頂きたく随時入会者を募集しております。檀家以外の方も大歓迎です。ご興味お有りの方は、お寺まで気軽にお問い合わせ下さい。

保小四年生総合学習

二十日(土) 休みを利用して見学学習だそうです。お寺のイベント?を根掘り葉掘り、子供達の興味は尽きることはありません。読経会はお経を読む会、御詠歌はお経を歌う会、子供向けの説明はなかなか難しいのです。「達磨さんがお坊さん?」一番の驚きのネタはこれだったようです。最後には坐禅も体験しました。



「質問責め?」



プチ坐禅体験

ちよと一言

「相悔やみ(あいくやみ)」

夏の暑さや異常気象のせいでしょうか、ここに来て体調を崩す方が多いとの話をよく聞きます。その様な影響からか今年には特に年賀欠礼の葉書の枚数も多いような気が致します。家族にご不幸がありませんと、先の御年賀は勿論のこと、様々な慶弔のお付き合いをどうしたものか気になるものです。その中で特にご相談頂くのが、相(共)悔やみに関する事です。少し説明させていただきますと、ご自分の家に不幸が起きて、日を空けずに親戚でもお弔いがといった場合、弔問をどうしたものか悩むところです。ここで相(共)悔やみという言葉が行動の道標となるわけです。

お互いに悔やみ、悲しみの痛み分けと解することが出来ますが、つまり同悲(どうひ)として相手の悲しみが最も身にしみて感じられるから四十九日間の弔問は控えるというものです。心理学者が示すストレス指数を見ても、配偶者の死には最も高い数値が充てられます。

仏教では冥土の旅路における一七日(ひとなか)ごとの供養や、その都度お会いする仏様を想定しますが、つまりはご遺族様が亡き方と寄り添うすべを様々な仏様との出会いという方便をもってお示し下さっているのです。二七日にはお釈迦様から仏子としての安心感を、三七日には文殊様から心の納得の智慧を、五七日にはお地藏様から悲しみを分かち合う術を、そして七七日には「心の成長」という気付きを与えられるのでしょうか。古からの癒しのプログラムです。急がぬ事も時には大切なかもしれません。